

# 研究結果報告書

## 日本のインドネシア人研修生・実習生の習慣、資金及び分野

所属：ビナ・ヌサンタラ大学 人文・日本語学部

役職：研究員

氏名：ロベルト・正己・プラボウオ(他2名)

本研究は日本から帰国したインドネシアの研修生・実習生が適応した文化に対する興味から始めた。

日本で学んだ文化が帰国後に適応した文化に対する新たな意欲や戦略になっている。3年間日本で就職し、日常生活や仕事場での習慣 (hexis) や倫理 (ethos) や理念 (eidos) や美 (aesthetics) によって、なぜか日本の文化に憧れることになり、それを真似して、実践した。

主にインドネシア研修生・実習生の挨拶は日本文化により習慣が変革した。身振りや目線や言葉遣いが変わり、人や他人を尊敬し、誠実に、調和を保つの行為が見られた。倫理の変革は自分や他人に対する責任感の意識が高まった。理念はお客さんや他人を大事にし、おもてなしの行為があった。美は清潔や整理など5Sにあった概念を実践した。

研究理論はブルデューのハビトゥス、資本、界の理論と満野史子と今城周造の気遣う文化を使用した。気遣う文化は武道の和敬清寂の根本で分析した。更に、気遣う意欲を知るために、バトソンの論では利他主義(altruism)、個人主義 (egoism) 、集産主義 (collectivism) 、原則主義 (principlism) が四つの軸となった。

その他に、日本で学んだソフトスキルはリーダーシップの精神、問題解決能力や開発能力、他人を動かす力があることである。

本研究は民族誌の研究法に基づいて、観察や面接の結果を分析した。

2005年から2008年の時、著者は日本で多数の工場で研修生・実習生の担当をした経験で兼ねて研究した。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

課題 : The Habitus of Trainee Employee in Japan

発表者名 : ロベルト正己プラボヲ

課題 : The 5th Friendly City International Conference (FCIC-5)

(<https://ocs.usu.ac.id/friendlycityconferences/>)

場所 : Grand Aston City Hall, Medan

Jl. Balaikota No.1, Kesawan, Medan Barat., Kota Medan, Sumatera Utara 20112

Medan, ID

日時 : September 12, 2019 - September 13, 2019

会議書類 : <https://ocs.usu.ac.id/friendlycityconferences/index/schedConfs/archive>

(Number 8452, Entitled: The Habitus of Trainee Employee in Japan)

-----  
International Conference on Management Information Systems 2021  
(ICMIS 2021) (<http://www.icmis.asia/index.html>)

発表者 : ロベルト正己プラボヲ

会議名 : Indonesia Management Information System Forum

日時 : 16.00~16.20 (<http://www.icmis.asia/ICMIS%202021%20ROOM%20IX%20SCHEDULE.pdf>)

場所 : Virtual Zoom Conference

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

(無)

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)

(無)